

SGH連絡協議会  
分科会

大阪府立三国丘高等学校

SGH研究主任 田中和代

SGH副研究主任 大塚雅之

2016.12.27



## 内 容

- ① 課題研究と海外フィールドワークの  
関連付けと海外連携方法
- ② ルーブリックを使用しない評価方法の開発
- ③ その他
  - 生徒に人気だった（うけた）企画
  - 留学支援
  - 3年生の進学状況

## SGH受講生

- ▶ 規模 各学年文理学科4クラス普通科4～5クラス
- ▶ 課題研究の授業 Creative Solutions
  - ①SGH
    - Core program
      - 各学年希望者40名
      - 火曜7限ぶら下がりの選択授業
    - Open program
      - 希望者も参加可能
  - ②SSI (←SSH)
  - ③文理学科の課題研究 (1, 2年 計320名)
    - ほとんどの教科の教員が担当
    - SGH・SSIの授業も一部実施

# 三国丘の SGHスタッフ



フィリピン観光省の心遣いでレイサービスを受ける

## 【学校内】

研究主任田中☞最先端オタク（ミーハー）

出向経験あり・2045年を常にイメージ

研究副主任山脇☞国際教育旅行のスペシャリスト

研究副主任大塚☞元銀行マン、政治経済のスペシャリスト

その他☞多彩な海外ツアー（付添教員の増加）

## 【最強OB】

西本昌二先生 元アジア開発銀行、UNDPで要職を歴任  
京都大学他大学教授陣、川淵三郎先生他運営指導委員

## 【学校交流アドバイザー】

魚住健氏 元日本旅行全米オペレーションセンター所長

## 【海外連携】

各国総領事館、各国観光局、各機関・大学と直接やりとり

人脈

手作り・突破力

① 課題研究と  
海外フィールド  
ワークの関  
連付け  
海外連携方法

## 1. 国際人としての理念を学ぶ

UNDP、ADBの要職を歴任された  
講師の授業（哲学と論理的思考）

1年生3月  
ポートランドFW  
全米一環境に優しい  
都市開発

## 2. 先進国の知見を学ぶ

メリルハースト大学（PIA）と提携し  
た英語の授業／最先端技術研究所の  
講義／京都大学での特別講義／NGO

## 3. 発展途上国の理念を学ぶ

京都大学特別講義  
フィリピン事前学習

2年生8月  
フィリピンFW  
現地大学生とコラボ

## 4. BOPビジネスプランを提言する

ビジネスプランの作成講義／Be Creative講座

高校生ビジネスプラングランプリ

その他コンテスト/課題研究発表会（国内外）

# 1.国際人としての理念を学ぶ

# 2.先進国の知見を学ぶ

1年生3月  
ポートランドFW  
23名

# 3.発展途上国の理念を学ぶ

2年生8月  
フィリピンFW  
20名

# 4.BOPビジネスプランを作成

環境問題に取り組むNGO訪問、特別講義  
(ダム、ビーバープロジェクトなど)  
メリルハースト大学の授業  
ポートランド市開発局の講義  
Green Building 視察  
(ポートランド州立大学、住居など)  
ホームステイ  
課題研究発表

アジア開発銀行、JETROでの特別講義  
パヤタス(いわゆるごみ山)視察  
エンドラン大学生とバディ制度  
GK Farm合同合宿  
(地産地消をめざした実験農場  
社会企業家の育成にも力を注ぐ)  
課題研究発表

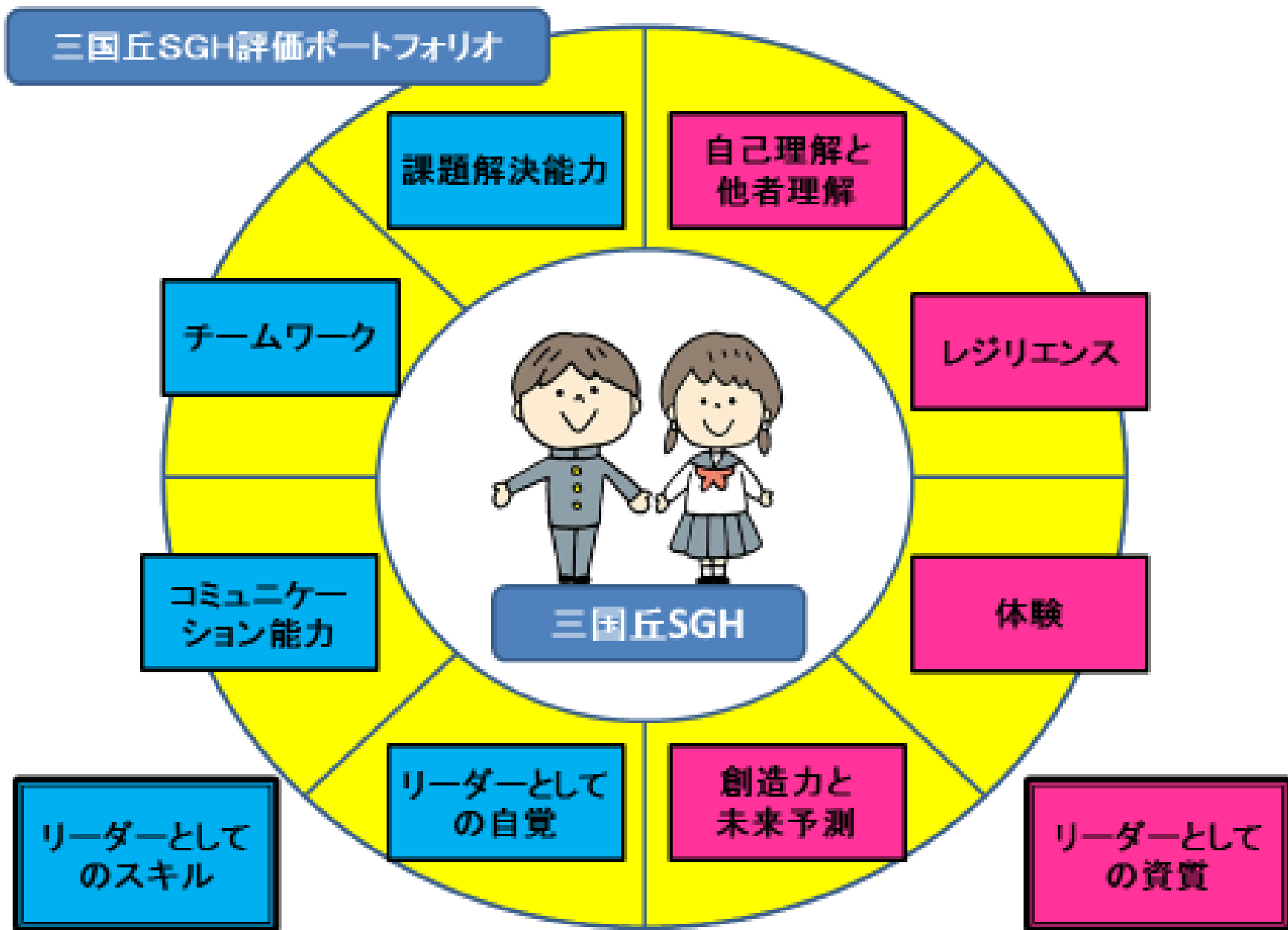
政府インターネットテレビ10分50秒頃をご覧ください

徳光・木佐の知りたいニッポン!~来たれ!未来の起業家 高校生ビジネスプラン・グランプリ

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg13909.html?c=23&a=1>

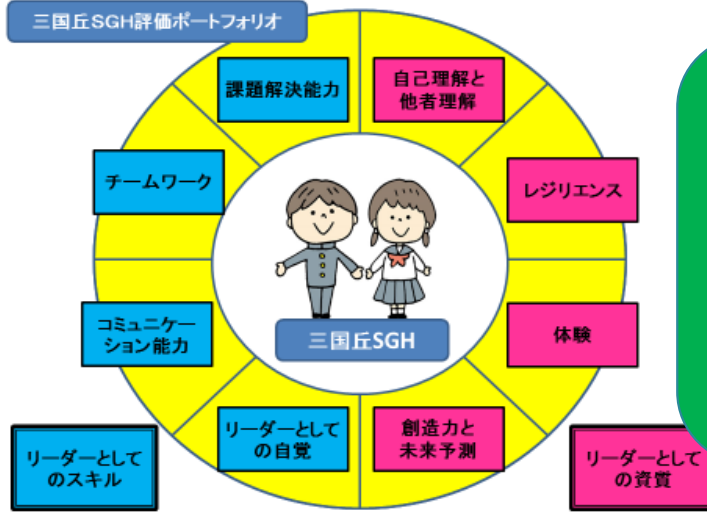


②ルーブリック  
を使用しない評  
価方法の開発





## ②ルーブリック を使用しない評 価方法の開発



これが全部できたらGLなのか  
教員が見えていない資質  
プレゼンや発表に現れない資質  
個性・創造性も評価したい

目標 観点	課題解決力				表現力 プレゼンテーション
	課題の設定	仮説設定・実験計画	結果	考察	
4	根拠※をもって課題設定できている ※先行研究や書籍・予備実験などの 情報を含む	仮説を検証するための誤差(精度) や個体差を考慮した 実験計画ができています	仮説の真偽を検証できるだけの 定量的な 結果が得られている	得られたデータを基に仮説を 検討し、結論に達している	以下の項目のうち、1項目達成ごとに ランクアップ  ①聞き取りやすい話し方であり、聴衆 の反応を意識して発表している  ②発表者の意図が伝わるグラフや 表などを選択している  ③適切な時間内で発表できている  ④質問に対して適切な回答をしている
3	課題が設定できているが、 根拠が曖昧である	仮説を検証するための 実験計画ができています	仮説の真偽を検証できるだけの 定性的な 結果が得られている	結論は導いているが、 論理的な飛躍が見られる	
2	目的は明確になっているが、 『課題』は把握できていない	仮説が立てられているが、 実験が計画できていない	結果は得られているが、 仮説の真偽の検証が困難である	根拠が不十分で、 結論が導けていない	
1		検証可能な仮説がたてられていない	結果が得られていない	仮説を検討できていない	
備考	課題発見力 情報収集力	仮説設定力 実験デザイン力	データの質	分析・考察力	わかりやすく伝えるための工夫

本校SSHのルーブリック  
(標準偏差 1)

グローバルリーダーとしての資質を評価する  
のにルーブリックは有効か？



そうだ、マッキンゼー



元マッキンゼーの先生のアドバイス



様々な評価の方法がある！  
評価を使って人材育成もできる！

②ルーブリック  
を使用しない評  
価方法の開発

②ループリック  
を使用しない評  
価方法の開発

## 評価ワークショップ

①自己評価

②他者評価（生徒同士）

③お互いの長所・短所を伝え合う

→コミュニケーションのテクニック向上

<リーダーとしてのスキル>		項目	項目の説明・意味など	◎○△	具体例
1	課題解決能力	・ロジカルフレームワーク	ADBが対象とする国や地域の問題点などについて、原因と結果の分析を行い、開発援助の計画の際に用いる理論的役割。		
		・分析力	多面的に物事を分析する力。SWOT分析、PEST分析など様々な分析方法がある。		
		・論理的思考力	情報を収集し多面的に分析しながら論理的に思考し、解決策を見出す力。		
2	チームワーク	・プロジェクトマネジメント	プロジェクトの全体を見渡し、目的達成に向けて必要な措置を講じながら推進していく力。		
		・ファシリテーション	プロジェクトをけん引しながら、メンバーと共に実際に進めていく力。		
		・フォローアップ	目的達成にむけて、リーダーを補佐しプロジェクトを進めていく力。		
3	コミュニケーション能力	・英語運用能力	英語でプレゼンができたり、コミュニケーションを取ることができる力。(TPOにあわせた対応ができることなおよい)		
		・プレゼンテーション能力	オーディエンスの立場に立って、PPTやポスター等を使いながらわかりやすく効果的なプレゼンをすることができる力。		
4	リーダーとしての自覚	・遂行力	様々な困難に直面した時最善の解決方法を考え、実践し、プロジェクトを成し遂げたり、やり通す力。		
		・覚悟	様々な困難が待ち受けているのを覚悟しつつ、よりよい状況をつくりだすために自己犠牲をいとわず挑んでいく心構え。		
		・専門性	推進しているプロジェクトに係る分野に高い専門性を持つ、あるいは専門性を持つべく積極的に学ぶ姿勢。		
		・オープンマインド	仕事仲間を尊重し、新たな出会いに対して臆病にならず、人間関係を築くことができる力。		

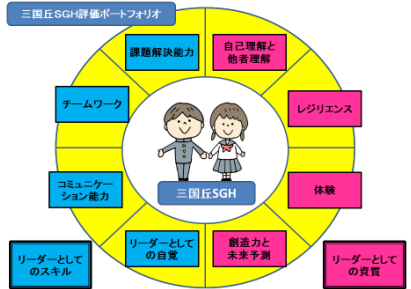
生徒記入欄  
(必ず横に具体的な事例を書かせる)  
自己評価と他者評価は色をかえて記入

<リーダーとしての資質>		項目	項目の意味	◎○△	具体例
5	自己理解と他者理解	・自分や自国の理解	自分史等を通して自身の長所と短所、適性や傾向を理解する。また、日本についても理解を深める。		
		・多様性の理解	様々な価値観に触れ、自分と異なる価値観を理解し容認することができる。		
		・異文化共生	異文化の人々とお互いの文化を尊重しながら共同作業ができたり一緒に暮らしたりできる力。		
6	レジリエンス	・失敗・挫折の経験	失敗や挫折の経験することを恐れず、挑戦する心を持つ。		
		・反省と前進	失敗や挫折の経験、そして反省をすることを通して更なる高みへ向かって前進する向上心。		
7	体験	・挑戦	未体験の事柄に積極的に挑戦する姿勢。		
		・フィールドワーク	はじめて訪れる土地でフィールドワークを行い、その土地の情報を集めたり、人々と触れ合ったりして目的を達成する。		
		・新たな視座	予期せぬ状況に出くわしたとき、新しい価値観、新しい視点から物事を分析し、軌道修正できる。また、後にそれを自分の新しい指針として取り入れることができる。		
8	創造力と未来予測	・現場力	予期せぬ状況にでくわしたとき臨機応変に対応し、まわりへの気配りを忘れずに判断を下し、プロジェクトを遂行する力。		
		・マインドマップ/設計のプロセス	Creativeなアイデアを出すためのブレトやマインドマップ、設計のプロセス(共感、定義、考察、試作、検証)を理解している。		
		・創造的課題解決策の考案と実践	上記のスキルを使って創造的問題解決策を考案し、それを実践していくことができる。		

他者の目線から気づいた自分の強みや改善点、feedbackの感想

感想記入欄

より詳しい説明



自分が◎○△をつけた欄だけ書かせる  
(全部書かせない)

◎とても成長した ○成長した △あまり成長できていない

◎○△	具体例
◎	自分かどういふ人間かは1つこう理解しているつもりです。 日本についても政治面とわいて興味がある。
○	自分と意見が異なっても、その意見と相手と意見を冷静に 分析してよりよい意見を出せる。
△	日本が恋しくなるので、 <i>英語の勉強</i> 長期間は厳しい。
△	入試も落ちたから、今のところ落ちたことによる 挫折はない。
○	料理が好き、自分の興味がおける 自発的に調べ、 <i>興味あると速断</i> 。 <i>知らないこと自信がある。</i>
△	必死になると 周りが見えなくなることに気がつく。 <i>マイペース</i>
○	日常的によく使う

自己評価は  
鉛筆で記入

他者評価  
は色ペン  
で記入

# 実際の記入例

◎○△	具体例
◎	理由を説明できる。
△	批判が見えなくて、空気がよめにくいところがある。人話を流している。
○	何を話したのかはなかったけれど、何回かプレゼンして、回数が増える ことでプレゼンが上手いと感じた。
○	努力できる。
△	めんどくさいことは極力避け、できる限り楽にやろうと思える。
○	それ以外の前のプレゼンでは、何を話したのかは分からない。自分のことだけ で、自分から調べて情報を集めたから。
◎	人と話したり自分の意見を言うことがとても上手だったけれど、グループでも 話し合ったりして1つのものを作っていくことができた。 誰かとも楽しく話せる。

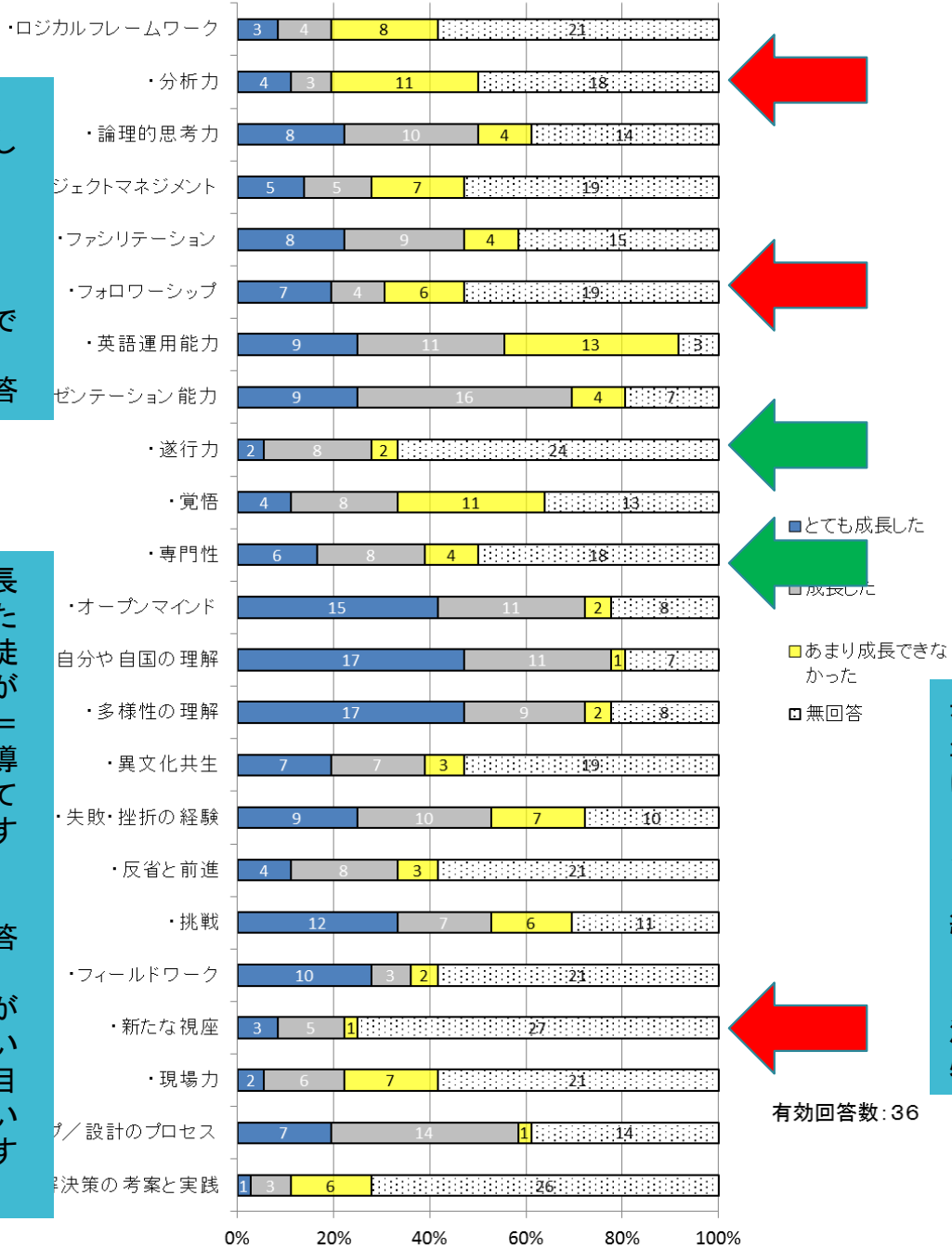


## 2年生

青→◎  
とても成長した  
灰色→○  
成長した  
黄色→△  
あまり成長できなかった  
無色は無回答

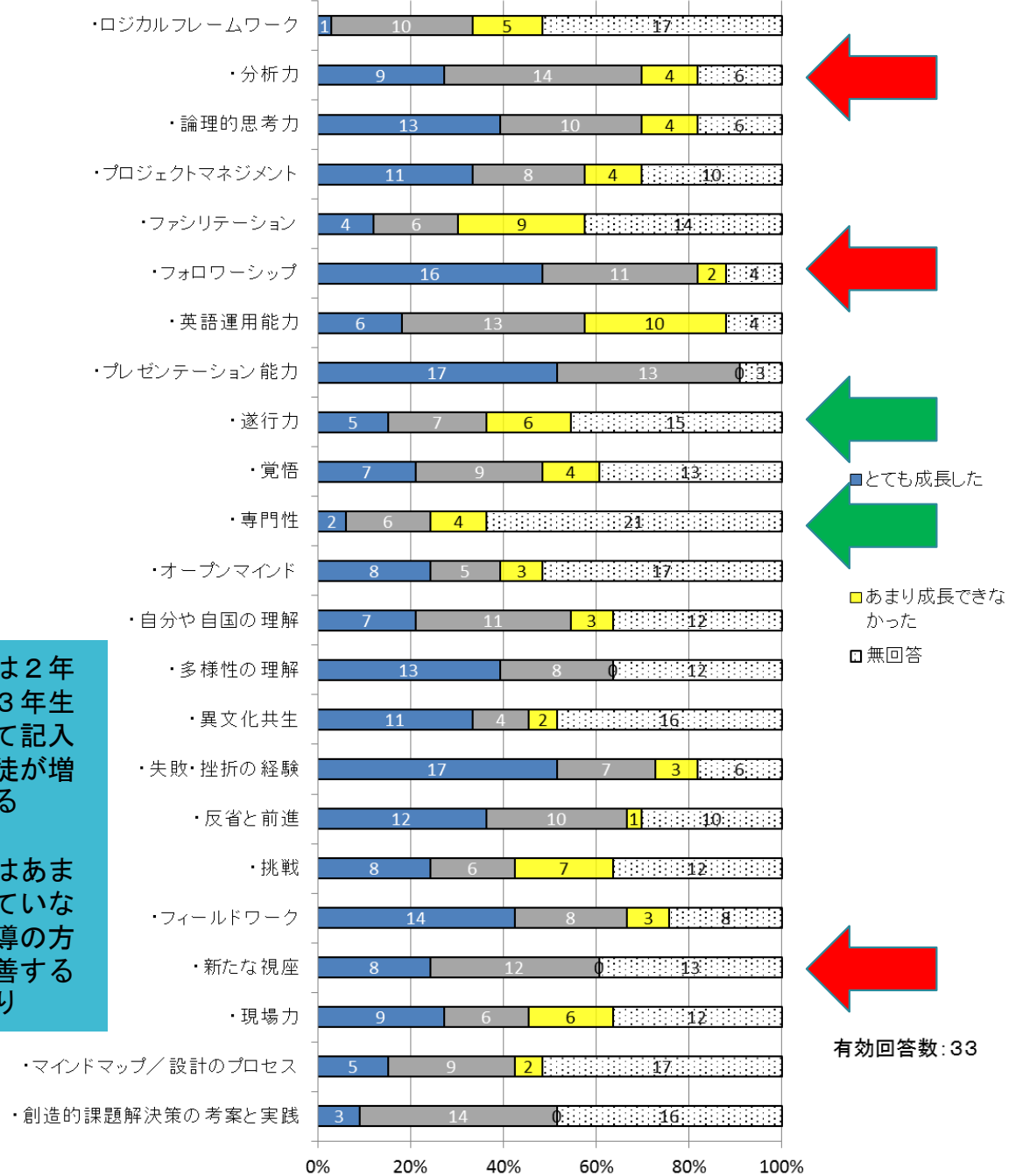
△あまり成長できなかったと答えた生徒も自己内省ができています＝こちらの指導目的が届いていると判断する。

問題は無回答のところで、生徒の関心が向いていない＝こちらの目的が届いていないと判断する。



赤矢印は2年生から3年生にかけて記入した生徒が増えている  
緑矢印はあまり増えていない＝指導の方法を改善する必要あり

## 3年生



# 大阪府立三国丘高等学校SGH

## 自己評価と他者評価による評価ワークショップ

平成28年5月8日

日時：平成28年5月10日（火）15：10～17：35（145分）

対象：SGH core program受講者 34名（3年生）

アドバイザー：甚上直子先生、田中満公子先生、

ファシリテーター：田中和代

目的：①SGHのカリキュラムを振り返り、自己の成長、強み弱みを認識する。

②自己評価と他者評価の違いを認識し、自分を客観的に見る大切さを学ぶ。

③他のメンバーの改善を促すために、どのような指摘をどのような態度であればよいかなどのスキルを学ぶ。将来、異文化の人たちとチームとして働く際にも使えるようにする。

用意するもの：自己評価記入表（34枚）、greenとyellowのカード（各11枚）、進行用PPT、デモ用シナリオ、ビデオ、カメラ

内容：（別紙進行表参照）

①振り返りペアワークと自己評価表記入

- ・ペアで成功体験と失敗体験を話す。
- ・評価表はすべて記入するのではなく、該当する項目のみ◎、○、△を書き、体験談等を書かせる。

◎とても成長した ○成長した △あまり成長できなかった

②課題研究をしてきたメンバーと3から4名のグループにわかれる

③feedbackのルールを、デモを見せながら説明する

④グループでfeedback活動

ポイント1：人格ではなく、行動を指摘する。

ポイント2：状況から聞いていく（あの時は何があったの？／何があれば解決したの？）

ポイント3：feedbackしている人にとって良いのではなく、feedbackされている人にとって良い、という姿勢が大切

⑤自己評価と他者評価の違いを確認させ、下段の感想を記入させる。

⑥各班でfeedbackの感想をまとめさせる

⑦各班発表

⑧ワークショップのまとめ

三国丘評価ワークショップを実施するにあたって

ここには書ききれないポイントがいろいろございます。

平成29年5月に実施する予定の本校でのワークショップをご覧いただくか

出張でワークショップをさせていただくこともできますので遠慮なくご連絡ください。

### 三国丘SGH 評価ワークショップ 進行表

	時間	内容	形態	備考
1	15:10-15:12(2分)	挨拶と簡単な説明		
2	15:12-15:20(8分)	story telling 2年間を振り返って成功体験と失敗体験をあげる	ペアワーク (同じ班以外の人と)	3分ずつで交代
3	15:20-15:40(20分)	評価表記入(自己評価)	1名	すべて記入するのではなく、該当する項目のみ◎、○、△を書き、体験談等を書かせる。 ◎とても成長した ○成長した △あまり成長できなかった *全ての項目を記入する必要はない (story tellingをしない場合は最低記入数を指示)
4	15:40-15:45(5分)	グループ作り	3名~4名	課題研究の班のメンバーを中心に
5	15:45-16:00(15分)	feedbackのルール説明 ①長所→改善してほしいところの順に話す	全体	教員2名によるデモ デモ1 防衛反応の例/攻撃の例 デモ2 状況から聞いていく/相手の行動のみ指摘
	16:00-17:00(60分)	②1名につき10~15分ずつ ③他者からの評価を違う色で評価表に書き込んでいく(他者評価) ④feedbackが深まらないときにはgreen、防衛反応や攻撃性が出ているときはyellowのカードをあげる ⑤1人目終了時困ったことがないかたずねる。また、カードがあがったときは、全体で共有する。		ポイント①人格ではなく、行動を指摘する。 ポイント②状況から聞いていく(あの時は何があったの?/何があれば解決したの?) ポイント③feedbackしている人にとって良いのではなく、feedbackされている人にとって良い、という姿勢が大切
6	17:00-17:10(10分)	下段の感想欄に記入	1名	他者の目線から気づいた自分の強みや改善点、feedbackの感想
7	17:10-17:15(5分)	reflection 各班で感想をまとめさせる		今後につながる振り返りをする
8	17:15-17:27(12分)	各班発表	全体	1班2分×6班
9	17:27-17:35(8分)	workshopのまとめ	全体	ポイントの振り返り





改善してほしいときは  
周りの状況から...



志望書を書くとき  
自分の長所を自信を  
持って書ける

SSIも採用



志望書  
自己の強み

①評価ワークショップ（前述）

②インタビュー体験（1年生夏休み）

③生徒に人気  
だった企画

調査することが当たり前

課題研究が深まる

レポートの書き方（聞くべきこと）

企業、行政、大学だけでなく

教員の協力もとりつけてくれる



大阪市長と





③生徒に人気  
だった企画

## ④IMEC講義（SSIと合同）



最先端技術・未来  
理系・文系  
事業の起こし方

## ⑤プレゼン講義

Anniversary Voice代表

東 大悟先生

東先生の指導で生徒のプレゼンが劇的にうまくなった！  
一例として、全国大会で披露した生徒のプレゼンをご覧ください  
高校生ビジネスプラングランプリ第3回最終審査会（三国丘が一番下の10組目）  
[https://www.jfc.go.jp/n/grandprix\\_awards/presentation\\_3rd.html](https://www.jfc.go.jp/n/grandprix_awards/presentation_3rd.html)





## 留学支援

- 卒業後すぐ留学
  - 2014年 1名 (アメリカ)
  - 2015年 1名 (アメリカ)
  - 2016年 2名 (アメリカ)
- 来年度以降
  - 2017年 4名 (+在籍中留学2名)
  - 2018年 3名
- 留学フェア30組以上出席
- 自信を持って紹介できる留学先

SGH 2つ

オーストラリア

NASA

スポーツ海外交流

修学旅行 (台湾)

## 3年生の 進路状況

# SGHを生かした推薦入試

国公立大学

京都大学 5名

大阪大学 1名

私立大学

慶応義塾大学 1名

関西学院大学 2名

東大、京大、阪大の後期入試廃止で保護者の注目度アップ。来年は、大阪大学はじめ、推薦入試の受験がさらに増加すると予想している。

学部選択にも影響が...

SGH=究極のキャリア教育



# 2045年に食いつぱぐれない

今の3年生はgoogleと同じ年  
→嘘、きれいごとが通じない時代  
→真の姿、最先端のものを見せる

# 失敗しろ！そこから学べ

失敗もアウトプット  
→アウトカムへする仕組み

分科会でご紹介した、三国丘評価ワークショップやBe Creative講座は公開授業にする予定です。

●Be Creative講座→平成29年3月末か4月上旬

●三国丘評価ワークショップ→平成29年4月下旬か5月上旬

SGH活動予定や本校HPでお知らせいたしますので、もしお時間ありましたらぜひお越してください。また、上記はビデオ撮影をしてご覧いただけるようにしたり、可能なら出張させていただくことも考えております。

ループリックを使わない評価は新たな試みですので、皆様のご意見をお伺いしながら、さらに良いものを作り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪府立三国丘高等学校  
SGH研究主任 田中和代  
T-TanakaKazuyo@medu.pref.osaka.jp